

公務災害防止事業の推進

安全管理セミナーを実施して

岐阜県大垣市消防団

1 はじめに

大垣市は、大正7年4月1日、全国で71番目の市として誕生しました。日本列島のほぼ中央に位置し、岐阜県第二の都市であり、面積は206.52km²、人口は164,355人（平成24年1月末現在）です。平成18年3月27日の市町村合併により飛び地になっており、東に墨俣地域、南西には上石津地域があります。

大垣は、中山道や美濃路が通り、古くから東西の経済・文化の交流点として栄えました。慶長5年（1600年）の関ヶ原合戦では、大垣城に西軍の石田三成が入城し本拠をかまえました。

関ヶ原合戦以後、寛永12年（1635年）戸田氏鉄が尼崎から移封され、以後幕末まで戸田大垣藩10万石の城下町として235年間続き文教のまち大垣の礎となりました。

また、元禄2年（1689年）、俳人・松尾芭蕉が約5か月に渡る「奥の細道」の旅を終えた結びの地としても知られています。

むすびの句

「^{はまぐり}蛤の ^{ふたみに}ふたみに別 ^{わかれ}行秋そ」

と詠んで、市内を流れる水門川の船町港から桑名（三重県）へ船でくだりました。

芭蕉は、大垣を4度訪れていて「蕉風」俳諧が広まりました。現在、水門川周辺は遊歩道「四季の路」が整備され、四季折々の花や街路樹など観賞しながら句碑めぐりができます。船町港跡にはむすびの句碑（蛤塚）があり、四季を通して多くの芭蕉ファンが訪れています。今年の4月には、奥の細道むすびの地記念館がオープンします。

また、大垣は古くから「水の都」と呼ばれ、良質な地下水に恵まれ市内各所に自噴井があります。中でも、加賀野八幡神社井戸は「平成の名水100選」に選ばれており、その水を求めて市内外から多くの人々が訪れています。

上石津地域は、標高800m前後の緑豊かな里山に囲まれ、かみいしづ緑の村公園、水嶺湖、時山バンガロー村など様々な自然体験が楽しめる施設があります。



大垣市位置図



大垣城



蛤塚

墨俣地域の旧美濃路周辺には古くから寺院が集まり、文化財が数多く残されています。また、木下藤吉郎が築いたとされる一夜城跡があり、現在は歴史資料館が建てられています。

2 大垣市消防団の沿革

大正9年の市制施行に伴い「大垣市消防組」として発足しました。昭和22年には消防団令が公布され、大垣市に於いても、大垣市消防団条例の公布に伴い、大垣市消防団が9分団、546名で発足しました。

平成18年3月27日、養老郡上石津町と安八郡墨俣町との合併により大垣消防団、上石津町消防団、墨俣町消防団の3団制となり26分団、消防団員702名でそれぞれの地域に応じた活動を行っています。

消防操法についても、岐阜県消防操法大会では、常に上位入賞を果たしています。

また、大垣市では平成22年4月1日から機



セミナー開始



芭蕉翁像

能別団員制度を導入し、消防団員や消防職員のOBを再任用しています。この制度は消防団員の職業がサラリーマン化したことで、昼間の災害に対応できる消防団員が減少したためその対策として導入したものです。現在3団で58名が活動しています。

3 安全セミナーを実施した経過

消防団員の公務災害防止については、各消防団とも、操法大会等行事前の説明会等において事故防止について常に呼びかけていますが、軽傷ですが公務災害の対象となる事案が毎年発生しています。

また、平成14年に遺族補償年金、平成18年



受講者

には障害補償年金の対象となる重大な公務災害が発生しました。

このような状況の中、公務災害の予防を目的とした予防研修会を毎年開催しており、今年度は消防基金に安全管理セミナーの開催をお願いしました。

公務災害の発生は、団員一人ひとりの安全管理が大事であると思いますが、現状としては団員人数の減少の外、在団年数が短くなる傾向がある中で、危険予知の訓練が未熟にもかかわらず、操法訓練等に於いては大会を意識し、タイムや形を重視するあまり、安全の配慮を疎かにしているのではないかとの思いがありました。

消防基金による安全管理セミナーは前回の開催から4年が経過しているため、改めて公務災害防止について学ぶことが大切だと考え開催を決定しました。

4 安全管理セミナーを実施して

平成23年10月13日（木）消防基金S-KYT指導員の井上勝明氏を講師としてお迎えして、安全管理セミナーを大垣市総合福祉会館ホールで開催しました。消防団員215名が参加しました。

特に今回、岐阜県及び大垣市での公務災害発生件数が多いということを知りました。公務災害というと災害現場での活動時や訓練時の事故に対してその瞬間の事だけに目が向きがちですが、事故は消防団の5M「健康・体力」、「機械・器具」、「指揮命令」、「教育・訓練」、「安全の雰

囲気」がうまく機能しないことが原因となっているというお話でした。とりわけ、「健康・体力」については、どちらかといえば消防団活動と無縁のような印象を受けていましたが、団員の健康状態に対して更なる配慮と団員自身の健康管理が必要だと感じました。

また、短い時間でしたが事故事例、事故の原因など具体例で分かり易く解説していただき、指差し唱和の練習を会場内全員で行うなど限られた時間のなかで充実した研修となりました。

5 今後の取り組みについて

今回のセミナーを開催して、改めて安全管理に対する認識を深めることができたと感じています。危険予知活動への取組、ゼロ災害をめざす強い信念、無事故を習慣として「とめる勇気」、「やめる勇気」をもって消防団活動に取り組んでゆきたいと思います。

睡眠不足、体調不良等により事故の発生原因となることがあり健康管理についても、同様に意識を高める取り組みが必要だと感じております。

消防団が「自分たちの地域は自分たちで守る」という団員一人ひとりの郷土愛護の精神に支えられ、地域防災の要として大きな役割を担うなかで、団員の安全を無視した消防団活動はあり得ません。

危険を予知する能力を高め、公務災害ゼロを目指して、今後とも定期的に消防基金の公務災害防止研修を開催したいと考えています。



指差唱和



講演風景